

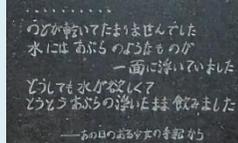
北海道・東北地協 医学生合同地協合宿 in 長崎

2017年11月3日～5日(金・土・日)長崎へ行ってきました。宮城から参加の7名を含め医学生は全体で23名の参加でした。

初日は佐世保へ行き、ガイドの山下市議から佐世保の歴史や軍港としての佐世保市の現状などを聞きました。2日目の午前、長崎大学核兵器廃絶研究センターの中村先生より核兵器禁止条約の世界情勢等についての講演を、午後は長崎市内を平和ガイドの方々の案内のもと、班に分かれFWを行いました。爆心地や平和公園、平和資料館などにいき、当時の悲惨な状況と長崎がどう復興していったのかを学びました。最終日は、被爆体験講話として、山脇さんから話を聞きました。爆心地から2.2キロの自宅で被爆したが奇跡的に助かり、今は当時の体験を海外の方に話すために勉強をして英会話ができるようになり、夢を実現しようと思って進めばいくつになっても実現できることを話されました。

参加した学生からは「実際に話を聞き、佐世保や長崎を見て、みんなで思いを出し合えることも含めて、本当に貴重な経験が出来た。」「こうやってしっかり伝えてくれることが本当にありがたい。恐ろしさや愚かさも含めて医学生・医師として発信していきたいと思う」などの感想が出ました。

毎年、テーマや合宿場所を変えて実施しています。興味のある方はHP(医学生のひろば)に詳しい内容が記載されます。



坂総合病院医学生だより

坂坂

〈発行〉
坂総合病院
医学生と共に歩む委員会
〒850-0165 長崎市錦町16-5
☎022-367-9007
2018年2月1日
No.78

坂坂

坂総合病院HP
「医学生のひろば」より
過去の坂坂をご覧になれます。

～研修を振り返って～

修 丹櫻 医師より、1年間の研修を振り返って、メッセージを頂きました!

はじめまして。坂総合病院の1年目初期研修医の修と申します。早いもので医師免許を取ってからもうすぐ1年が経とうとしています。

学生の頃は、研修医といったら「もう医者として働いている人じゃん、すごい!」などと思っていた気がしますが、それは大学受験の時に医学部生が神々しく見えたり、1年生が6年生はなんでも知っていると思っっているのと同じことでした。

いざ働き出してみるとできないこと・知らないことの多さに愕然とさせられます。そんな私ですが、どうにか外科、循環器科、呼吸器科の研修(各三ヶ月)を終えて、それぞれの科での主要な病気や手技の概要を知り、入院中の患者さんの治療から退院までのマネジメントを通じて主治医の役割がわかってきました。坂病院では患者を主治医制で受け持っており、入院患者の主治医は他ならぬ「自分」です(もちろん上級医も一緒に診てはくれますが)。自分がその患者さんについて病院内で一番知っていることが求められ、自分が能動的に動かなければ患者さんの問題は全く解決されません。学生時代に先生の後ろをついて回る状態とのギャップに戸惑いましたが、そのぶん重症で意識状態が悪かった人が回復して話し出したり食事を始めたり、元気に外来に通院しているところに出会った時には、自分でもびっくりするほど嬉しくなりました。

また病棟での仕事の合間には救急車当番として救急車で搬入された患者さんの初期対応を行ったり、在宅で療養されている方のお家へ訪問診療に伺ったり、内科外来で外来患者さんをみたり、深夜当直で歩いて受診しに来る患者さんの対応をしたりしながら毎日を過ごしています。別の病院で研修中の友人と話してみると初期研修医は病棟業務を中心とすることが多いようですが、坂病院では外来診療の研修のプログラムが充実していると感じます。

もちろんまだまだできないことだらけで辛いこともありますが、こんなに毎日新しい学びがあるのは人生の中でとても貴重な期間だなと感じます。

これを読んでいる医学生の皆さんは将来どんな研修医像を想像しているのでしょうか?わたしはもちろんこの病院でしか初期研修の経験はありませんが、ここで研修して良かったと思っています。どんな研修がいいとは一概には言えないと思いますが、是非一度当院の研修を見学しに来ていただければと思います。



教えて!先生～コメディカル編～



これは医師に負けないという所は何ですか。

専門分野や機器の使い方には自信があります。研修医に学習会で教えています。また、患者と仲が良い所です。声を掛けやすい雰囲気、心を掛けています。



検査技師 C先生



職員同士でプライベートで遊ぶことはあるのか。

職員同士で女子会や男子会、病棟の集まりなど様々行っています。研修医も参加して交流しています。



理学療法士 D先生

今回の坂坂の発行は5月の予定です。

坂坂で読んでみたい記事はございますか? 医師やコメディカルに聞いてみたいこと・病院のこと・勉強方法についてなど... ぜひ、こちらまでご意見をお寄せください! igakusei@miyagi-min.com

震災時の坂総合病院

◇災害拠点病院

当院は、2008年4月に災害拠点病院に認定されています。宮城県の災害拠点病院は16ヶ所あり、民間では当院のみです。



※災害拠点病院とは、災害医療支援機能を有し、24時間対応可能な緊急体制を確保する拠点病院のことです。

◇大規模災害訓練を実施

当院では、大規模災害を想定した訓練を、2006年から毎年1回4月に行ってきました。

◇東日本大震災による被災状況

2011年3月11日
14時46分 震度6
M9の地震発生。



地震による直接的な建物被害・人的被害は少なく、津波による被害が甚大でした。特に、仙台湾に面している多賀城市・七ヶ浜町が大きな被害を受けました。当院は津波被害は免れましたが、数百メートル先まで津波はきていました。



◇災害医療活動

14:46 M9の大地震発生
14:49 坂病院災害モード発動
14:52 災害本部設置
14:59 トリアージポスト構築

地震が発生したとき、当院は通常診療中でした。外来には多くの患者さん、入院患者さんやお見舞いの方、デイケアサービス利用者など、多くの方が病院内にいました。地域全体の電気・水道・ガスが全て停止、病院のライフラインも全て止まり、すぐに自家発電へ切り替わりました。



対策本部の構成員が24時間体制で、地域の被災状況の確認・ライフラインの確保・職員の食料確保など、様々なことに対応しました。



トリアージ体制は、3月11日から22日までの12日間実施しました。(※

トリアージ：傷病者の重症度に基づき、治療の優先順位を決めること)

入院患者数は定床357床に対して、災害モードとして400床以上に増床して対応、3月23日から通常診療を開始しました。



◇全国から支援が・・・！！

災害発生の翌日には、山形から支援が入り、それ以降、全国の民医連(医療等の全国機関。坂も加盟。)から続々と支援が到着しました。仮設住宅の訪問、患者対応、外来診療などの支援に入ってくださいました。

震災の二日後から、トリアージ体制とともに避難所訪問を行いました。全国の支援が終了する5月31日まで、訪問



した避難所数は、塩釜市で16ヶ所・多賀城市で15ヶ所の計31ヶ所で訪問回数は469回におよびました。最終的に、全国から延べ2,443名の民医連の仲間が支援に訪れました。



当時勤務していた職員からお話を伺いました。

◇震災直後の状況

・毎年、大規模災害訓練を行っていることもあり、本部の立ち上がりが早かったです。検査中に地震が起き、地震がおさまって、患者さんを誘導しようとしたらすでに本部が立ち上がっていました。



・地震が発生してすぐは患者さんは来ませんでした。普段ならなにかしら音が聞こえるが、電気が止まっていることもあり、とても静かな夜でした。

・夜遅くになり、来た患者さんは水に濡れ、重油まみれで、低体温症の人がほとんどでした。

・当院は津波被害は免れましたが、病院のすぐ近くまで津波が来ていたことを後から知りました。



◇病院の状況

・当時は、職種に関係なく、様々な業務にあたりました。トリアージのタグ張りをしたり、メッセージャーとして動いたり、患者さんの移動、食事の介助、オムツ交換など、普段とは異なる業務に戸惑いました。

・停電後、自家発電に切り替えたため、電気はつかえました。そのため、近隣の病院から、在宅酸素、痰吸引、人工呼吸器の患者さんを受け入れることができました。



◇医療活動を通してつながる輪

・すぐに全国から民医連の仲間が応援にきてくれたのが嬉しかったです。

・神戸から来た医師は、自分たちが大変だったときに助けてもらったから、と話していたそうです。

・当時、物資が足りないとテレビで放映されると、全国から支援物資が届きました。
・沢山の支援があったからこそ、災害医療活動が可能でした。



震災から7年が経とうとしている今、震災当時の記憶が薄れていくなかで、改めて震災当時のことを考えてみませんか。宮城民医連では、5月に被災地フィールドワークを開催します。興味のある方は、ホームページに情報が掲載されるので、ご覧になってください。

ホームページはこちらです！⇒



WinterMeeting2017in 松島

2017年12月27日～28日に松島の大観荘にて、医学生をつどいWinterMeetingが行われ、28名の医学生・50名の職員が参加しました。今回は、学習企画として被災地フィールドワーク（FW）・スモールグループディスカッション（SGD）を行いました。

SGD

FWを通して感じた事をグループごとに話し合いました。



- ・大震災を経験した病院の人と話すのは初めてで知らないことが沢山あった。(2年)
- ・同じものを見て、人によって思うことが全然違うので話し合いをしてよかったと思った。(6年)
- ・資料や実際の経験を組み合わせることで色々な話を知ることができた。(5年)
- ・自分では気づかないところを意見交換によって考えられてよかった。(2年)

?

ウィンターミーティングとは？

- ①マッチングした6年生の国試合格の激励
- ②奨学生同士の交流
- ③宮城県医連や坂病院を知ってもらう
上記を目的に、毎年開催しています。

被災地 FW

学習企画では、診療圏の被災地FWを行いました。

【FWの目的】

- ①診療圏の今の様子を知る
- ②津波の被害や復興公営住宅を見る
- ③復興の在り方を考える
- ④自分がこの地域で働くこと・地域に求められていることをリンクできるようにする。

2017 宮城県医連 医学生ウインターミーティング夕食交流会



仙台市荒浜小学校（震災遺構）の見学

震災当時の話を聞き、震災の被害の大きさと復興が進んでいない現状を学びました。

- ・震災遺構を実際に見れて良かった。(2年)
- ・実際に荒浜小などの被災現場を見学して、災害の恐さを感じた。医療者としてどのように被災者と関わるか初めて考える機会だった。(2年)
- ・改めて仙台の復興した姿、まだまだな部分、今後挙がるであろう課題を再確認することができた。(4年)



仙台パワーステーション （仙台石炭火力発電所）見学

復興の進み方と診療圏の健康被害の可能性を考えました。

- ・災害に関しては、医療人として関わる部分が多いと感じた。エネルギーについてはこれから学んでいきたい。(6年)
- ・いろいろな危険性を安易に考えてはいけなかった。(2年)

